青空文庫 (6)「源氏物語」夕顔 (51) 紫式部 [行書体] 與謝野晶子訳

月　　日　名前

なぞって練習

などとことばしてみせたりしたが、このほかには最初夕顔の花を折りに行った随身と、それから源氏の召使であるともあまり顔を知られていない小侍だけを供にして行った。それから知れることとになってはとの気づかいから、隣の家へ寄るようなこともしない。女のほうでも不思議でならない気がした。

copyright (c) まる字の無料ペン字練習と漢字検定テキスト集 all right reserved.